

「縄文の心」で人とまちをつなぐ –世界文化遺産登録をきっかけとしたまちづくり

山田 かおり 縄文 DOHNAN プロジェクト 代表

山田総合設計株式会社 地域ソリューション部 課長代理

2021年7月「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録された。その2年前、函館市内の湯倉神社にて縄文のイベントを開催した。その際に学芸員から、1万年以上も続いた縄文時代は争いもなく、自然や物に感謝する心を持って、助け合いの精神で暮らしていたことを聞く。この「縄文の心」が、まさに縮小社会に直面し、利害関係が衝突、将来像を描くことも滞る函館のまちをつなぐキーワードになると直感した。そこで翌月7月に産学官民の有志で立ち上げた。

特に動く組織として、世界遺産登録をきっかけに縄文の魅力を楽しく伝え、郷土愛を育み、道南圏が繋がり、新たなまちづくりへ展開することを願い活動する。発足時10数名のメンバーは現在49名となった。活動内容は走りながら、状況に応じ修正しているが、主な取り組みを外観すると、①チームづくりと巻き込み、②巻き込みながらの資金調達、③学び、④縄文をまちの課題解決に生かす展開である。

まず、①チームづくりと巻き込みとしては、お堅いイメージのある縄文に親しみを感じてもらえるよう、函館在住イラストレータが応援キャラクター「カックー」をデザイン。日常的に目に触れるLINEスタンプの制作や、マスクをつけたカックーが新型コロナウイルス感染防止呼びかけるポスターを学校や学童等に掲示した。

②巻き込みながらの資金調達としては、メンバーによるアイデア出しと出資により、Tシャツやバッグ、マスクなどカックー等を用い商品化した。そして、観光地・函館の特性を生かし、函館山山頂から遺跡のあ

る南茅部、市内名所など幅広い場商品販売をとおしてカックーを登場させた。多くの人々の目に触れ、購入してもらうことで巻き込みを狙っている。

③学びでは、まずはメンバー自らが学ぶツアーを実施、遺跡見学や土器づくりを体験し、縄文の魅力と課題を迫った。さらにガイドの確保という課題に対し、きっかけづくりとして「はじめての縄文ガイドツアー」を開催した。また、日本生産性本部主催の地方創生カレッジ in 函館アドバンス編「北の縄文から始める一万年のストーリー」で事務局を務めた。世界遺産をテーマにまちづくりの進め方を学ぶ場を創った。

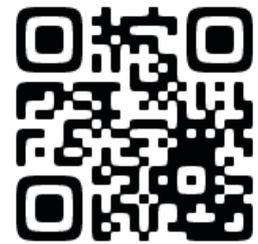
最後に④縄文をまちの課題解決に生かす展開としては、地域の事業者が縄文を入れた商品開発により、経済的な地盤沈下が進む函館において、経済効果の創出を目指す。例えば、函館洋菓子店ではカックーの形状のクッキーに縄文のメッセージも添えた「かっくッキー」を販売、縄文食材の昆布を使用した「縄文リップ」や、カックーをパッケージデザインに入れた珍味、クリを使用した縄文ビールなど、企業とのタイアップにより新たな商品を続々と生み出している。さらに食材だけでなく、建材や燃料等に大活躍したクリに着目、世界遺産の垣ノ島遺跡にて、学芸員から学び、ワークショップをとおし、新たな商品開発へ着手している。

また、かつて国際貿易港として栄えた函館の多様性を生かし、縄文紙芝居の制作、子どもの語りによるYouTube動画の共有、函館の学生や在住外国人らにより英語、ロシア語、フランス語等の10言語の多言語化に市民力で取り組んでいる。縄文の価値や精神を、かわいいキャラクターを用いた子どもらの語りの掛け合いで伝える紙芝居は、地元ケーブルテレビの協力でもとも魅力的な動画コンテンツとなった。

今後も縄文を通したまちづくりを目的に、函館の人に自分ごととして関わってもらい、世界中の方々へ向けて、函館や北海道のルーツである縄文文化を発信し、地域内外の人とまちをつなげ続けたい。



パブリックビューイングにて世界遺産登録決定を喜ぶ縄文 DOHNAN プロジェクトメンバー



小4コンビが朗読する紙芝居動画のQRコード